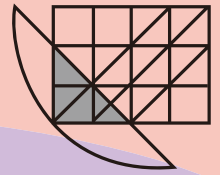


# 博物館だより



## 和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.30

2026.3

休館明け第一弾は

### 特別展 蘆雪生動 — 南紀 無量寺への旅 —

蘆雪という画家

江戸時代半ばの天明六年（一七八六）、一人の画家が紀州を訪れました。京都の長沢蘆雪（一七五四〜九九）です。蘆雪は現代までつながらる日本画の礎を築いた円山応挙の高弟で、この一〇年の間に愛知、スイス、大阪、福岡、東京の各地で回顧展が開催されるなど、注目を集めています。代表作の「龍虎図」（図1）は、ご存じの方が多くかもしれません。

蘆雪は丹波国篠山藩（兵庫県丹波篠山市）の藩士の家に生まれたのち、幼少期を京都で過ごしました。当時京都で大活躍していた円山応挙に絵を学び、二九歳のときには『平安人物志』という京都の著名人が掲載される書物に名を連ね、画家として世間の評価を得ていました。

蘆雪が三三歳のとき、遠方での大きな仕事を与えられます。それが、天明六年から七年にかけて紀州を訪れ、三つの寺で手がけた約一八〇面の襖絵。現在残っ

ている蘆雪画の中では最初で最大の連作なのです。

なぜ和歌山に来たのか

蘆雪が紀州に来た目的は、宝永の大地震（一七〇七）を経て再建された紀伊国南部の禅宗寺院——無量寺、成就寺、草堂寺——の襖に絵筆を揮うことでした。無量寺と成就寺は串本町、草堂寺は白浜町にあります。有史以来最大級の地震とされる宝永地震は、紀州の沿岸部に壊滅的な打撃を与えました。蘆雪が揮毫した三か寺も例外ではなかったようで、無量寺は地震の後に移転、草堂寺のある富田地区でも痛ましい被害があったことが、各寺院の棟札や「津波警告板」（富田区长蔵）から明らかになっています。草堂寺は地震から七七年後の天明四年（一八一四）にようやく新本堂が竣工、無量寺は七九年後の天明六年（一八一六）にようやく再建が叶います。そこで、完成した本堂の襖絵を仕上げるために呼ばれたのが蘆雪でした。伝

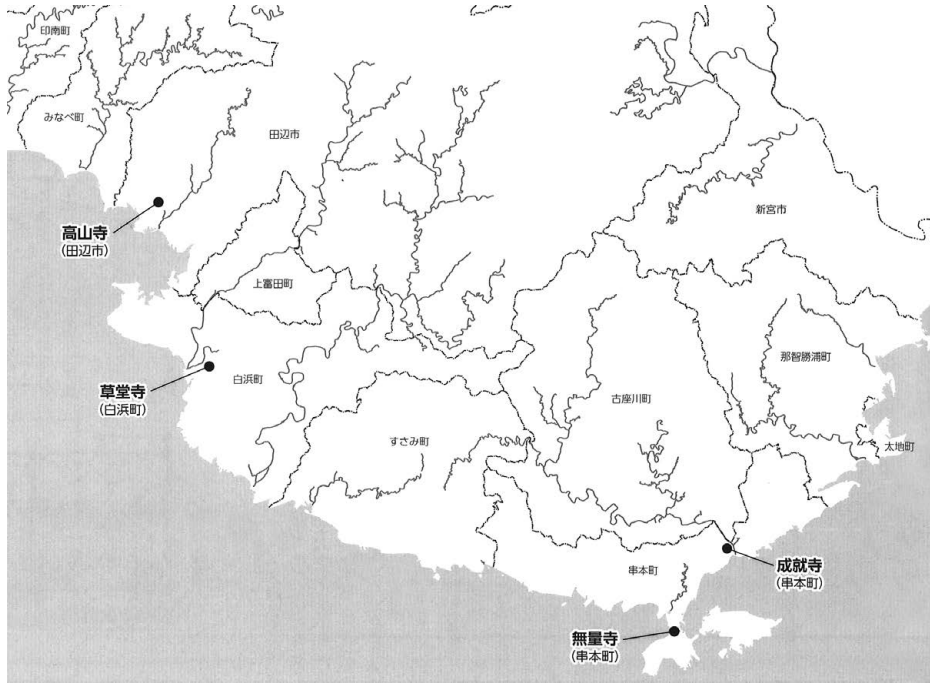


(図1) 重要文化財 龍虎図 長沢蘆雪筆 無量寺蔵

承では、無量寺・草堂寺の住持と応挙が若い頃にある約束——あなたが絵を描きましよう——をしていましたが、多忙で京都を離れられなかった応挙の代わりに、高弟の蘆雪が遣わされたと言われています。

### 無量寺収蔵庫の改修

蘆雪が去った後、三か寺はそれぞれの方法で襖絵を守ってきました。そのうち無量寺は、独自に収蔵・展示施設



(図2) 蘆雪の障壁画がある和歌山の寺院地図

を構え運営してきた点に特色があります。昭和三十六年(一九六一)一月、無量寺境内に「串本応挙芦雪館」が開館。収蔵と展観を兼ねた小美術館として串本の人々とともに歩み、令和八年(二〇二六)の本年には、開館六五周年を迎えます。また、平成二年(一九九〇)には襖絵を保存しつつ公開する収蔵庫を開設。こちらも建設より三五年を迎え、この先も長く襖絵を守り伝えるために、今年、改修工事が行われることとなりました。和歌山県立博物館では



(図3) 無量寺収蔵庫外観

### 蘆雪の襖絵が一堂に

通常は現地で公開されている無量寺の襖絵が博物館にやってくる貴重な機会にあわせ、成就寺、草堂寺、そして蘆雪が最後に立ち寄った高山寺(田辺市)と、蘆雪が

紀州で描いた襖絵のすべて(修復中のものを除く)を展示します。さらに、蘆雪が帰京後、画風を洗練させて挑んだ薬師寺(奈良市)の襖絵も一堂に並びます。それにより、蘆雪が和歌山で遂げた変化、そして蘆雪を育んだ紀州の魅力も感じられる機会となることを願って準備中です。

また、無量寺のご協力のもと、寺宝の悉皆

調査を行っています。串本の歴史の一端を語る、寺外初公開の資料にもお目にかかれるかもしれません。

国内において無量寺の蘆雪による襖絵全てが寺外で公開されるのは、二〇〇〇年に当館と千葉市美術館で展示されて以来二五年ぶり。応挙の襖絵も同時に寺外で公開されるのは、国内では初めての機会となります。

### タイトルにこめた意味

最後になりましたが、タイトルについて触れておきたいと思います。今回メインとなる無量寺の蘆雪画の魅力を一言で表したいと考え選んだのが「生動」という言葉です。『日本国語大辞典』には、「名」生き生きとしていること。特に、文字・絵画などの、いまにも動き出そうとするかのような生き生きとした趣をいう。」とあります。東洋絵画史の文脈では、中国南斉の画家謝赫(しゃかく)が絵画の最も重要な要素として「氣韻生动」を挙げて以来、目指すべき絵のあり方として追い求められてきたものです。龍虎図に代表される無量寺の絵画は、今にも画面から飛び出してきそうな、躍動感にあふれる表現が魅力です。展示室では、生き生きと動きださんばかりの蘆雪画の魅力を、全身で感じていただければ幸いです。そして、制作から二四〇年ものあいだ蘆雪画を愛し、守り続けてきた先人たちの心にも思いを馳せていただけたなら、とても嬉しく思います。

# 文化財レプリカの製作と活用

## 技術交流会・ワークショップ・シンポジウム

和歌山県立博物館では、文化財の複製（レプリカ）を製作し、活用する取組を行っています。文化財をめぐる交流が、人口減少や高齢化といった地域課題に向き合う、博物館からのアプローチとなることが目標です。この取組は、平成二二年度から文化庁の博物館支援事業の補助を受け、同様の地域課題に向き合う全国の博物館と地域への普及、すなわち事業のモデル化を目指してきました。今年度は、昨年度から取組に着手する大分県立歴史博物館の協力を得て、さらなる普及に向けた課題と展望の共有が実現したことも、大きな成果です。

### 技術交流会（二月一九日）

3Dスキャナと3Dプリンタを用いる造形は、県内の高等学校と共働で取り組んでいます。和歌山の県立和歌山工業高等学校産業デザイン科、そして大分の県立宇佐産業科学高等学校電子機械科の生徒たちが、相互の製作について発表し、情報交換や課題の共有を行いました。

### ワークショップ（二月二五日）

和歌山では、田殿丹生神社の丹生明神・高野明神坐像（平安時代）をテーマに文化財レプリカを製作。田殿小学校や有田川町教育委員会等の協力を得て、地域住民や児童・生徒三〇名が、

レプリカの着色や下地処理の作業を体験しました。

### シンポジウム（二月二日）

大分県立歴史博物館にて、この事業モデルの紹介や展望を語りました。基調講演には、当館学芸員時代に事業をはじめた大河内智之氏（奈良大学教授）に登壇いただき、宇佐産業科学高等学校の生徒たちによる事例報告や、講演・報告を踏まえた各館担当学芸員と大河内氏三者のディスカッションを行いました。

博学連携の継続にはまだまだ工夫が必要です。より持続可能な方法を探り、文化財に向き合う仲間を増やすため、努めて参ります。



ワークショップで地域のこどもやおとなに着色のポイントを伝える大学生

## 友の会と現地見学会を開催

令和七年（二〇二五）一月一五日（土）一三時から一六時まで、友の会との共催で、特別展「紀伊徳川家の威風」の関連イベントとして現地見学会を開催しました。博物館を出発し、徳川吉宗生誕地や報恩寺、寺町通り、珊瑚寺、岡公園、和歌山城岡口門などを巡り、学芸員が各所で説明しました。見学会前後に展示をご覧いただくことで、紀伊徳川家に関する関心や理解がより高まればと考え、計画しました。事前申込みで募集し、参加者は二七名でした。天候にも恵まれ、木々の紅葉を愛でながら、博物館周辺の、意外と知られていない紀伊徳川家ゆかりの場所を訪れることができました。博物館は、今後も友の会との共催で、こうした現地見学会を開催する予定です。



岡公園での説明の様子

## 博物館は

### 令和八年八月まで休館

和歌山県立博物館は、現在（令和八年三月時点）休館中です。令和八年三月までは、館内にある三機のエレベーター改修工事のため、休館をしています。また令和八年四月～八月上旬は、館内の空調機改修工事のため、休館をする予定です。再オープンには令和八年八月一日（火）からの特別展「蘆雪生動―南紀無量寺への旅―」となります。今回の改修工事は、展示室などのリニューアルではないため、八月の再オープンを迎えても、新しくなったところはわかりにくいかもしれません。当館も築三〇年を越えており、施設として様々な課題も出て来ております。少しずつではありますが、更新を進めていければと考えています。約半年間休館することになります。約半年間休館することは、ご理解とご協力をよろしくお願いたします。再オープン後も今まで同様、博物館をご利用いただけます。よろしくお願いいたします。



資料運搬用エレベーター工事の様子

# 2026年度の展覧会

## 休館

4月1日(水)～8月10日(月)

館内の空調機改修工事および展示替のため休館します。

**常設展**  
きのくにの歩み  
一人々の生活と文化

10月10日(土)～  
3月31日(水)

三万年にわたるきのくに―和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示しています。なお、特別展「蘆雪生動―南紀無量寺への旅―」の開催期間中は、常設展示を行っておりません。

**特別展**  
蘆雪生動  
―南紀無量寺への旅―

8月11日(火・祝)～  
9月23日(水・祝)

近年注目を集める江戸時代の画家、長沢蘆雪。京都画壇の巨匠円山応挙の高弟でありながら、型破りな表現で人気を得ています。蘆雪の最初に最大規模の連作は、和歌山県南部の三つの寺で描いた障壁画。そのうちのひとつ、串本町無量寺の収蔵庫改修工事に合わせ、生き生きと動き出すような蘆雪画を一堂に公開する特別展を開催します。

**企画展**  
くらひらく  
―博物館の蔵仕事事例集―

10月10日(土)～  
12月6日(日)

人々はむかしから大切なものを蔵におさめてきました。道具や記録や宝物など中身はさまざまですが、関連する地や人の歴史を物語る品々が、ぎゅゅと詰まっていることはたしかでしょう。その蔵に眠るのは、宝の山が文化財か。現在進行中である高野山大学との共同研究、高野山北室院文化財調査を中心に、くらをひらいていく現場を紹介いたします。

**企画展**  
海南の古刹 願成寺

12月19日(土)～  
2月14日(日)

海南市別所に位置する古刹願成寺。平安時代に遣唐上人が待賢門院の冥福を祈るために建てた寺院です。願成寺には和歌山県指定文化財の願成寺文書が伝えられ、寺院の成り立ちと変遷を詳しく知ることができます。この企画展では、願成寺に残された古文書を中心に、平安時代～江戸時代の願成寺とその周辺地域の歴史を紐解きます。

**企画展**  
きのくに工芸のきらめき

2月27日(土)～  
4月11日(日)

和歌山県内には日本を代表する様々な工芸品が残されています。その多くは寺社への奉納というかたちで大切に守り伝えられてきました。また寺社門前や城下町和歌山などでも、多くの職人が華麗な工芸品を制作していました。この企画展では、県内に伝えられたきらめく工芸品の数々を紹介します。

### 和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会(予定)

#### 常設展 MOMAWコレクション

##### ① 関西の戦後美術

2月14日(土)～5月6日(水・祝)

##### ② 現代版画

4月14日(火)～6月28日(日)

##### ③ 彫刻・絵画

8月4日(火)～2027年1月11日(月・祝)

##### ④ 版画

8月4日(火)～2027年1月11日(月・祝)

##### ⑤ 鈴木崇×MOMAWコレクション

10月14日(水)～2027年2月11日(木)

**企画展** 万博のレガシー

2月14日(土)～5月6日(水・祝)

**特別展** 下村観山展

5月30日(土)～7月20日(月・祝)

**企画展** なつやすみの美術館16

7月11日(土)～9月27日(日)

**特別展**

1930年協会創立100周年記念  
生誕130年 前田寛治展

2027年2月20日(土)～3月28日(日)

### 博物館の利用案内

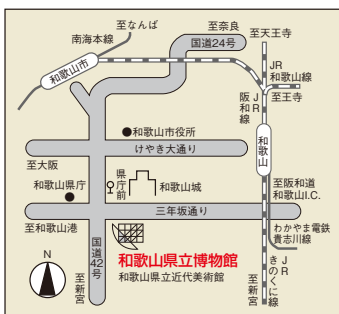
**開館時間** 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
**休館日** 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、2026年4月1日(水)～2026年8月10日(月)、それ以外でも臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

#### 駐車場

入館者	2時間まで	無料
	以後30分ごと	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

### 交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

### 入館料

#### 〈常設展・企画展〉

	一般	大学生
個人	310円	190円
団体	250円	150円

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方は無料です。  
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

#### 〈特別展 蘆雪生動―南紀無量寺への旅―〉 〈常設展示は行っていません〉

	一般	大学生
個人	910円	570円
団体	750円	450円

### まちなかの博物館・美術館をめぐる!

和歌山市内5館(和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館)の相互割引制度がありますので、是非ご利用ください。

和歌山県立博物館 博物館だより 第30号

編集 和歌山県立博物館  
TEL (073) 43618670  
https://hakubutu.wakayama.jp

令和8年(2026)3月発行